

2024 10/4(金) 12/1(日)
10月28日(月)は休館

ワンコイン 観覧券

近代日本画の真髄

旧見玉 KIBO

筆力展 驚異の KODAMA KIBO

千変万化

The Essence of Modern Japanese Painting KODAMA KIBO Exhibition of Amazing Brush Power that Changes Endlessly

【開館時間】9時～17時(金曜日は19時まで開館)
※入場は開館30分前まで ※10月4日は10時開場
※開館情報等に変更の生じる場合がございます。
最新情報は広島県立美術館(電話・HP・SNS)まで

【入場料】一般1,500円、高・大学生1,000円、中学生以下無料(未就学児含め)

※前売・20名以上の団体は当日料金より200円引き ※会期中、本展チケットのご提示(半券可)により、100円で観覧園にご入園いただけます。

●学生券をご購入・ご入場の際は、学生証のご提示をお願いします。

●身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び軽度障害者手帳の所持者と介護者(1名まで)の当日料金は半額です。手帳をご提示ください。

●前売券は、広島県立美術館・セブンチケット(セブコード:106-574)、ローソンチケット(Lコード:62217)、チケットぴあ(Pコード:687-020)、RCCオンラインチケット、楽天チケット、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウン広島、中国新聞社読者広報部などで販売しています。

【主催】広島県立美術館、中国放送、イスマテック、中国新聞社
【後援】広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、エフエムふくやま、放送エフエム放送
【協賛】広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団
【助成】令和6年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業

広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

上:《華春》1930年 絹本彩色 広島県立美術館
下:(左上)《續観月》1933年 絹本彩色 広島県立美術館、《深窓》1963年 絹本彩色 広島県立美術館、
《清津(新水墨画十二巻)》1959年 絹本墨画 広島県立美術館、《室内》1952年 絹本彩色 広島県立美術館、
《南晴》1940年 絹本彩色 二階堂美術館 ●作者はすべて児玉希望、すべて部分

press release

近代日本画の真髄
児玉希望
千変万化
驚異の
筆力展
KODAMA KIBO

【開催趣旨】

本展は、広島県出身で大正、昭和の日本画壇を牽引した巨匠の一人である児玉希望（1898-1971）の回顧展です。当館では四半世紀ぶりの開催です。

児玉希望は、師の川合玉堂から学んだ狩野派・四条派の技法をもとに、仏画、北宋画、大和絵、花鳥画、浮世絵、歴史画、油彩画、西洋絵画、水墨画、抽象絵画と、画派や画風・画題を横断したことから、「一人の画家のものとは思えない」と言われるほどです。

作者は、古典への探究や自由な発想、それを表現するための圧倒的な筆力により、多彩な画業を展開しました。

本展では、約120点の希望作品に加え、師の玉堂や画壇の重鎮・横山大観、盟友・伊東深水ら関係の深い画家の作品も併せてご紹介します。

千変万化を繰り広げ、日本画の可能性をどこまでも追い求め格闘した、日本画家の覇気をご覧ください。

【本展のみどころ】

1. 児玉希望の代表作が結集！

多彩な画業を繰り広げた児玉希望の画業を約120点の作品で回顧。色鮮やかな風景画や、スタイリッシュな水墨画等、千変万化の画家・児玉希望の作品を堪能できる（展示替あり）。

2. 巨匠たちの名品も必見！

希望の師・川合玉堂や、交流のあった横山大観、希望の盟友・伊東深水、京都画壇のスター・堂本印象の名品を紹介。希望が生きた時代の美術の空気が味わえる。

3. 多彩なイベントの開催！

講演会や水墨画のワークショップ、安芸高田市と連携した神楽公演や産直市、児玉希望ゆかりの地をめぐるウォーキングツアーなど、児玉希望の魅力をさまざまなイベントで紹介する。隣接する縮景園との連携イベント（後日リリース）もあり。

第1章 誕生！ 日本画家・児玉希望—玉堂に学ぶ、古典に学ぶ

現在の広島県安芸高田市に生まれた児玉希望は、傾いた家運を挽回するため、実業家あるいは政治家を目指して上京する。しかし、祖父の死を契機に画家となることを決意し、まず尾竹竹坡(1878-1936)に、その後、1917(大正6)年に川合玉堂(1873-1957)の長流画塾に入門。円山四条派と狩野派の技法を学んだ玉堂のもと研鑽に励み、日本画を学び始めてからわずか5年後の1921(大正10)年、《夏の山》で帝展初出品、初入選を果たす。以後、生涯にわたり、官展を中心に旺盛な活動を展開した。

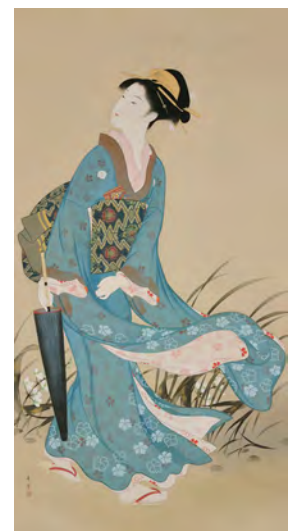
本章では、少年時代の作品や故郷への思いを伝える資料、初期の人物画から帝展で希望の名を知らしめた風景画、花鳥画に加え、若き日の希望が指針とした師の作品や、憧憬をもって学んだ宋元画を紹介する。

「一人の画家とは思えない」と評される希望の多彩な画業がいかに誕生し、展開したのか、そしてそれは何を目指していたのか—近代日本画の世界に鮮やかに登場した希望の飽くなき探求がここから始まる。

第2章 波瀾！ 戦時下を生きる—歴史画と日本美術工芸統制協会

風景画と花鳥画によって帝展で認められた希望は、1939(昭和14)年に一転して歴史人物画《荊軻》を発表。さらに翌年からは浮世絵風の美人画を次々と手掛ける。この大きな転向は画壇に驚きをもたらしたとともに、その精度の高さから希望のもつ探究心の深さ、画技の卓越性を知らしめた。ここに、千変万化の画家、児玉希望が誕生する。

しかし、時代は日中戦争の只中にあった。1938(昭和13)年に国家総動員法が制定されると、あらゆる経済活動、国民生活が政府の統制下に置かれ、総力戦体制が整えられてゆく。その影響は美術にも及び、1943(昭和18)年に全美術家の統制機関として日本美術報国会(美報)が、全美術製作資材の統制・配給機関として日本美術及工芸統制



児玉希望《雨晴》1940年
二階堂美術館

協会（美統）が発足する。美報の会長には横山大観（1868-1958）が就任。希望は、美統の理事長となり、国と画家の間に立ち制作に必要な資材の配給に努める。そこには、社会状況と無縁ではられない画家の姿があった。



児玉希望《荊軻》1939年 当館蔵



第3章 対決！ 日本画滅亡論／「学校派」に抗して

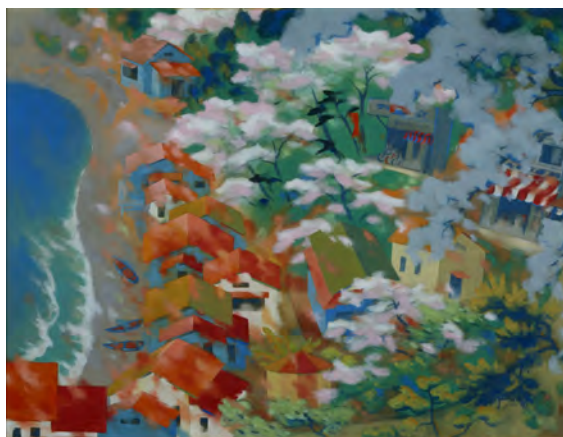
敗戦による混乱と、欧米文化の急速な流入により、日本の文化全体が問い直される中、画壇では、「日本画滅亡論」が沸き起こる。その危機感から、有力な中堅作家らは、1949（昭和24）年に創造美術やパンリアル美術協会を結成。希望も、戦後、新たに半官半民の形で改組された日展の中堅画家として、懸命に新たな作風を模索する。その一つが、ピエール・ボナール（1867-1947）やオディロン・ルドン（1840-1916）ら近代西洋絵画の色彩研究に基づく、色彩豊かな画風への挑戦だった。

また、同時期に、希望は盟友の伊東深水（1898-1972）、矢野橋村（1890-1965）らとともに、それぞれの画塾を横断・統合した新たな画塾日月社を立ち上げる。その目的は、東京美術学校（現東京藝術大学）卒業生を中心とする「学校派」に対抗し、「私塾系」画家の活躍の場を広

げることにあつた。研究発表の場としての日月社展では、希望や弟子の奥田元宋（1912-2003）らが洋画風の日本画を試み、他塾のメンバーと刺激を与えあいながら戦後の荒波へ立ち向かう。



児玉希望《室内》1952年 当館蔵



児玉希望《春のバンガロー》1954年 当館蔵

第4章 検証！ 西洋美術との対峙

希望は、1957（昭和32）年から約一年間、ヨーロッパに滞在する。59歳の思い切った決断だった。

この渡欧の目的は、日本の伝統絵画が国際的にどのような評価を得られるかを試すこと、西洋美術を本場で学ぶことにより、戦後の日本画が進むべき道を見定めることにあつた。

桃山時代の絢爛豪華な金碧障屏画風の作品や水墨画、書などを展示したイタリア（ローマ・ヴェネツィア・ミラノ）やフランス（パリ）での展覧会は、ローマ法王やイタリアの首相も訪ねるほどの大成功を修めた。特に好評を博した水墨画への自信を深めた希望は、その反響を積極的に当時の国内雑誌などに発表。帰国後には、これからの日本画が進むべき道を水墨画と定め、その研究成果を世に問うた。

この渡欧は、希望の個人的な挑戦であつただけでなく、画壇の重鎮として、日本画滅亡論後の約10年間の日本画を総括し、混迷する画壇の後進への道を示す意味があつたと考えられる。そして帰国の翌年、希望は日本芸術院会員に推挙される。



児玉希望《仏蘭西山水絵巻（海）》（部分）1958年 東京国立近代美術館

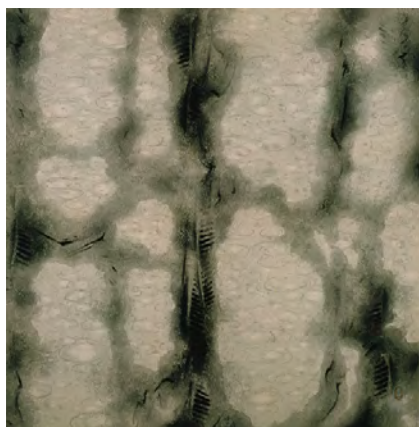
第5章 跳躍！ 日本画の抽象、その先へ

日本芸術院会員となり、社会的地位を得てなお、希望の自己変革は続く。

帰国の翌年（1959）に開催した「児玉希望新水墨画展」では、《新水墨画十二題》シリーズを発表。渡欧体験で得た水墨画への手ごたえをもとに、当時、世界的に流行していたアンフォルメル（非具象）の絵画動向を踏まえて描かれた同作は、日本画の枠組みを揺さぶるものとして注目された。

さらに、1962（昭和37）年の第5回新日展に発表した《踊》では、写生やデッサンに省略や変形を加え、純粹に絵画的な造形を求める方向に作風を深化させる。1960年代は、希望の他にも、堂本印象（1891-1975）や杉山寧（1909-1993）らが日展の中で「日本画の抽象」を目指し、変革を試みた時代でもあった。

やがて、晩年の希望は、新たに仏教をテーマとした創作に入る。画業の最初期以来となる仏画制作は、老境を迎えた画家にとっての個人的な心境の反映であるとともに、なお衰えぬ創作意欲の現れであった。



児玉希望《滴律（新水墨画十二題）》1959年 当館蔵



児玉希望《踊》1962年 当館蔵

終章

1968（昭和 43）年、希望の故郷・広島県に広島県立美術館が開館する。希望もその設立に尽力した同館にて、1970（昭和 45）年、「児玉希望回顧展」が開催される。19歳で川合玉堂（1873-1957）に入門以来、約50年の画業を集成する展覧会であった。

しかし、広島県立美術館に作品を一括寄贈した翌年（1971）の5月2日、《百花百鳥図（四季図）》を制作中に急逝する。享年 73。絵筆を握ったままの死に、親交のあった高松宮宣仁親王（1905-1987）は、「武士が戦場で刀を持って死んでいったようなもの。本人も本望であったろう」と語ったという。

美術評論家の菊地芳一郎（1909-1983）は、「戦後日本画家の中で、この作家程激しい変転を見せた作家も稀であろう。だが、その変転自体、また日本画の変

思転史をわせるものがある」（『戦後美術史の名作 日本画篇』1967年）と語る。児玉希望が50年にわたって展開した画業の変遷は、近代日本画の真髄を求めた飽くなき探究の軌跡そのものだったのである。



《百花百鳥図》制作中の希望

【関連イベント】

① 講演会「鬼になれー内弟子から見た児玉希望」

日時：11月23日（土・祝）13：30～15：00 [開場13：00]

講師：石原 進（日本画家・日展会員）

会場：地下講堂

共催：広島県立美術館友の会

定員：200名

※聴講無料 ※要事前申込

② 講演会「児玉希望の画業と近代日本画のあゆみ」

日時：11月2日（土）13：30～15：00 [開場13：00]

講師：神内 有理（当館主任学芸員）

会場：地下講堂

定員：200名

※聴講無料 ※要事前申込

③ 水墨画ワークショップ「希望に挑戦！絹に描く抽象」

日時：11月9日（土）13：30～15：30 [開場13：00]

講師：今村 雅弘（広島市立大学芸術学部美術学科日本画専攻教授）

前田 由芽（同校非常勤助教）

杉浦 沙恵子（同校実習補助員）

会場：地下講堂

定員：20名（先着）※小学4年生以上

※要材料費1,800円 ※要事前申込

④ 神楽公演 児玉希望の出身地から神楽団がやってくる！

日時：10月20日（日）

①12：30～ ②14：30～

出演：原田神楽団

会場：地下講堂

※要児玉希望展半券 ※要事前申込

安芸高田市の特産品販売！

当館エントランス／11：00～15：00

press release



⑤ 学芸員によるギャラリートーク

日時:10月18日(金)、11月1日(金)、11月15日(金)
11:00~、18:00~

会場:3階企画展示室

※要入館料

⑥ 児玉希望ゆかりの地ツアー

日時:10月27日(日) 13:00~16:30

講師:秋本哲治(安芸高田市歴史民俗博物館副館長)

会場:安芸高田市内(安芸高田市歴史民俗博物館集合)

定員:18名(先着)

共催:安芸高田市歴史民俗博物館

※要参加費600円 ※要事前申込 ※小学生以下は保護者同伴(小雨決行)

⑦ 展示室からインスタライブ

日時:10月8日(火)、11月5日(火)、11月26日(火)
17:00~

※①②③④⑥事前申込は当館082-221-6246(9:00~17:00)



⑧ 公開講座(安芸高田市歴史民俗博物館)

「児玉希望の画業と故郷への思い」

日時:10月13日(日)13:30~15:30 [開場13:00]

講師:神内有理(当館主任学芸員)

会場:安芸高田市民文化センター(クリスタルアージュ)4階小ホール

定員:80名

※受講料500円(安芸高田市歴史民俗博物館入館料込)

※要事前申込 9/12(木)~申込開始

(電話0826-42-0070 安芸高田市歴史民俗博物館9:00~17:00)

press release



【関連概要】

メインタイトル：近代日本画の真髄 児玉希望 千変万化、驚異の筆力展

英語名：The Essence of Modern Japanese Painting

KODAMA KIBO Exhibition of Amazing Brush Power that Changes Endlessly

会期：令和6年10月4日（金）～12月1日（日）

※10月28日（月）は休館

開館時間：9：00～17：00（金曜日は19：00まで開館）

※入場は閉館の30分前まで ※10月4日は10:00開場

料金：一般 1,500円 高・大学生 1,000円 中学生以下 無料（未就学児含め）

※前売り・20名以上の団体は当日料金より200円引き

※会期中、本展チケットのご提示（半券可）により、100円で縮景園にご入園いただけます。

※学生券をご購入・ご入場の際は、学生証のご提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者（1名まで）の当日料金は半額です。手帳を提示してください。

※前売券は、広島県立美術館、セブンチケット（セブンコード：106-574）、ローソンチケット（Lコード：62217）、チケットぴあ（Pコード：687-020）、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウン広島、中国新聞社読者広報部などで販売しています。

開催クレジット

主催：広島県立美術館、中国放送、イズミテクノ、中国新聞社

後援：広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、エフエムふくやま、尾道エフエム放送

協賛：広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団

助成：令和6年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業

問い合わせ先：広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail：iroeuma2@gmail.com

担当：学芸課 神内有理

広報担当：総務課 一色直香

公式 SNS はこちらから



【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用をご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、

1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみお願いします。（ボールペンなど使用不可）